



ホームページ
「中野あきと」

日本共産党市議会議員 中野あきと・事務所ニュース

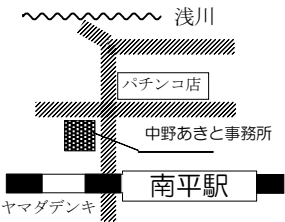
みどりと清流

中野あきと事務所 第143号
〒191-0041 日野市南平6-25-1
南平ビル1階 2014年
TEL・FAX 042-599-3350 5月発行
発行責任者 小林 進

しん 赤旗
ぶん

日刊紙1ヶ月 3497円
日曜版1ヶ月 823円
お申し込み 党南多摩事務所
TEL 042-374-4384
または中野事務所へ

法律・生活相談など
お気軽にお立ち寄り下さい



2014年度予算に見る日野市政

3月予算議会 日本共産党の論戦から

3月議会で議決された2014年度予算は、一般会計で552億円、特別会計で517億円と全体で1069億円を超える大規模なもの。市長は、予算編成にあたり、「中長期的な行政課題の根本的な解決に向けて果敢に取り組む」「将来を見据えた予算編成を行う」と強調しました。果たして予算の中身はどうなっているか・・・議会論戦を通して浮び上がってきた特徴・問題点について紹介します。

中野あきと

あまりに市民生活に無頓着

第一の特徴は、格差と貧困を広げるアベノミクスと4月からの消費税の増税という大変な害悪が市民生活を襲いかかるうとしている時なのに、市民生活を応援したり、注意を払わなければならないという関心すら希薄な予算となっていることです。

この15年来、市民の所得は下落し続け、今年度は、課税標準ベースで200万円未満の市民が57%にも及んでいます。「生活が苦しい」低所得の市民が増えてきているのです。

しかし、そうした市民の暮らしを支える認可保育園の増設や特別養護老人ホームの建設などは当面予定されていません。それどころか、新年度以降、保育料や学童クラブ使用料の値上げ、市営駐輪場の全面有料化をすすめたいと、市民生活に無頓着な市の姿勢が浮き彫りになっています。

公共事業にはアクセル

第二の特徴として感じるのは、市長が予算編成で強調した「中長期的な行政課題の根本的解決」を口実に公共事業にアクセルを踏み始めた予算となっていることです。

長期化など深刻な行き詰まりにある区画整

理事業について、まともな検討も説明もなく、市の区画整理に対する負担金の予算を倍額の10億円超に増やしてきました。来年度以降も10億円規模の負担金の支出を続けたいとしています。また、「地域経済の活性化に資する」と20億円以上かける新規道路建設に前のめりになってしまっています。

民主主義の原則を踏みはずして

第三の特徴として感じるのは、自治体の本分を見失った予算となっていることです。「自治体は住民の意志と責任によって運営される」とこの住民自治の原則を見失って、地元住民が反対している、ごみ広域化のための準備予算を次々と具体化しています。

「時には権力的に対応しなければならぬことがある」「市民参加は大事だが限定的なものもある」と力んで正当化しようとする市長の姿は、権力者のおごりそのものです。

準備予算の計上や執行など既成事実を積み重ねて地元自治会や住民に断念を迫り、白旗を上げさせるようなやり方は、およそ地方自治、民主主義とはかけ離れた許しがたいもので、どんな理屈があろうと行政が決してやっではならない「禁じ手」です。

日本共産党市議団は、こうした市の姿勢が浮き彫りになった予算に反対するとともに、暮らしの願いに応える施策の充実や実現、またごみ広域化の暴走ストップへ、市民のみならずと力を合わせ、全力を尽くします。



短信

テレビをだらだら見るのが、悪い癖であるが、たまには面白い番組にもぶつかる▼BSで世界の猫が出てくる番組はその一つだ。動物写真家の岩合さんが、猫に話しかけると、たいいは近寄ってくるから不思議だ。「いいこだね」と言っていると、わかってのさうか興味深げにカメラをのぞき込む。そんなときに「まてよ、これで猫がしゃべれたら、うるさいだろうな」と変な連想をしてしまう▼メダカを何故宇宙に連れていくのかという番組もあった。骨は一度できたら変化しないものではなく絶えず破壊され、造られていくもので、そのバランスが崩れ、壊れるほうが多くなると、骨粗しょう症になるのだという▼メダカの細胞に色を付けて、宇宙環境でそのメカニズムを観察すると、宇宙についての直後から、変化が観察されること。宇宙で何故骨が弱くなるかを解明し、それを通じて骨粗しょう症の対策へ繋げていくのだという▼「生命とは動的平衡にある流れである」との言葉が浮かんできた『福岡伸一著「生物と無生物のあいだ」』。エンゲルスも何か言っていたなと思った▼安倍首相が集団的自衛権の話始めたところで、テレビのスイッチを切った。(H)

2014年度の保育園待機児 昨年度より33名増え188名に！

2014年4月1日の日野市における保育園の待機児が188名にのぼっていることが明らかにりました。一昨年度が153名、昨年度が155名ですから、減るどころか大幅に増えてしまったこととなります。また、基準を満たした認可保育園の待機児数というと、291名にも及んでいます（昨年度は230名）。

市は、この間、待機児解消加速化プランをつくって対応してきましたが、これによると2014年度へ向けては、たかたか保育園の廃止に伴う民間保育園の設置で30名、つくしんぼ保育園の改築で11名の合計41名の定員拡大を図り、昨年度の155名から132名まで待機児が減らせるとし、2015年度へ向けては40名定員の認証保育園の設置、2016年度へ向けては100名程度の認可保育園の設置で100名規模に待機児を減らせるとしていました。

今年度188名の待機児が発生したことは、この計画では待機児をゼロにするどころか、減らすこともできず、逆に増えてしまっていることを示しています。

なお、日本共産党市議団は、そもそもこのプランは待機児をゼロにする方針になっておらず抜本的な見直しを求めてきました。

計画に反して待機児が増える事実が明らかになった以上、見直しを図るとともに、今年度、早急に認可保育園の増設など必要な手立てをとるよう求めるものです。

市営駐輪場の有料化問題

「将来を見据えた…」と言うけれど

市議選でも問われた自転車駐輪場の有料化問題について、市は4月15日付け広報ひので「将来を見据えた自転車等駐車環境整備戦略(案)」を発表しました。

現在、市営の無料駐輪場は駅周辺を中心に市内で39施設つくられています。その中で27施設の有料化を平成27年4月より実施するとしています。

「将来を見据えた」方針であると強調されていますが、駐輪場の有料化は、環境に優しく健康増進にもつながる自転車利用を抑制することにはつながっても、促進することにはならないことは明らかです。

中野あきと市議は3月議会の一般質問で「当面の放置自転車対策ばかりに力んでしまっている。極めて安易だ。環境政策や将来を見通したまちづくりの視点が欠けている」と指摘しました。

3・3・2号線の延伸説明会開かれる

4月19日(土)日野第二小学校で国道20号日野バイパス(延伸)事業(日野都市計画道路3・3・2号線)の「設計説明会」が開かれました。

説明の対象は一番橋から日野3・4・24号線(東芝跡地から西平山への道路)まで。計画の概要は、一番橋から平山橋手前までは28m道路(片側2車線)、そこからは40m道路(片側3車線)。信号機の設置は一番橋、豊田駅からの道路交差点、平山橋交差点を含む計5か所。平山橋からの道路の交差は、平面交差との説明があった。

参加した住民の皆さんからは●交差点の数が少なすぎる。●この設計は自動車のためのものだ。浅川側は陸の孤島になる。国の都合だけの計画で、歩く人やお年寄りのことを考えていない。●平山橋の交差点を立体交差でなく、なぜ平面交差にしたか。●このまま計画を進めないでほしい、など次々意見がだされました。

これに対し、警視庁とも相談していきたいと回答がありました。



国保税の大幅値上げは必要なかった！

3月議会論戦で明確に

「平成23年度以降の4年間で43億円の財源不足が生じる」と1人あたり12,000円、1世帯平均で20,000円、平均18%もの大幅値上げを押しつけた問題で、中野あきと市議はこの3月市議会の国民健康保険会計の予算委員会においてあらためて追及。

計画の最終年度である4年目の予算が示されたことにより、財源不足が当初見込みより3分の1程度にとどまり、大幅値上げは必要なかったことが明らかになりました。

中野市議は、「大幅値上げの根拠を財源不足と市民に説明してきた以上、その根拠が崩れたのだから市民にその事実について説明することは最低限の市の責任だ」と指摘しつつ、「値上げは3分の1でよかったわけで、事実を踏まえて国保税は引き下げるべきだ」と迫りました。

これに対し大坪冬彦市長は、「説明しなければというのはその通り」としながらも、「厳しい市財政を見ると、値下げはできない」との立場に終始しました。



ごみ問題学習会

広域化と全国の先進例を学ぶ

日時 6月1日(日) 10:00~12:00

場所 生活・保健センター 講座室

講師 岩佐恵美さん

(環境・資源、廃棄物問題の研究者)

主催 日本共産党日野市議団

連絡先 042-582-0505

《2014年 6月の無料法律相談》
市役所6階 共産党控室 午後1時~3時
6月 12日(木)
※予約が必要ですので、お申し込み下さい。

ご感想・ご意見を
お寄せ下さい。